

# ICT を活用した生徒が発音を意識し取り組む授業実践

—相手に伝わる発音の定着を目指して—

学籍番号 (209313)

氏名 (寺村 拓真)

主指導教員 (橋本 健一)

## 1. 研究背景

### 1.1 学部時代の教育実習から見た発音指導の課題

教育実習ではコミュニケーション活動を主体とした授業を行ったが、生徒の発音を聞く  
と日本語に影響された発音で産出している場面が多く見られた。教育実習指導教諭は文法  
指導を中心とした授業を行っており、発音指導を実施する頻度は少なく、定着することな  
く「発音の仕方がわからない」という生徒が半数程度見受けられた。

### 1.2 英語科における発音指導の現状

平成 29 年度の中学校新学習指導要領において、「知識及び技能」の「英語の特徴やきま  
りに関する事項」において「コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に着けるこ  
とができるように指導する」と記載されており、その中に発音について明記されている。  
しかし、発音指導は教師によって指導内容が異なっており、熱心に行う教師もいればあま  
り行わない教師もいるということが文献調査からわかった。

### 1.3 ICT 機器の活用

中学校における ICT 機器使用率は年々増加しており、2021 年に 1 人 1 台に ICT 機器が配  
布された。しかし発音指導では ICT 機器があまり使用されていない。

### 1.4 研究仮説と研究方法

ICT 機器を活用することで効果的な発音指導ができるのではないかと仮説設定した。生  
徒が発音に意識を向けて取り組むことで、発音の小さな違いに気づくことができるよう  
になり、音の違いを意識した英語の産出に取り組むようになる。また発音を学ぶことで話す  
力・聞く力だけではなく、綴りがわかる音から推測して読めるなど英語能力全体の向上に  
つながると考えた。

本授業実践研究は中学生 146 名を対象に行った。15 分のモジュール授業とタスクを用い  
た 1 コマの授業で行い、授業前と授業の展開の最後に生徒の発話を録音し、発音への意識  
によって英語らしい発音ができているか違いを調べた。また授業の終わりにアンケートを  
行い、発音への意識変化を調査する。

## 2. 個別音の指導

子音の[th]に焦点を当てたモジュール授業を行った。語学学習アプリ Hello Talk を活用し、音声知覚トレーニングを行い、生徒が音の違いを意識して聞いて認知できているか英語母語話者・非英語母語話者の音声を用いて行った。

## 3. 母音挿入の指導

カタカナ英語脱却を目指して、母音挿入に焦点を当てたモジュール授業を行った。‘Let it Go’を用いて、YouTubeを活用してカラオケのように歌うことで、日英語の音節構造の違いによりカタカナ英語で歌うことが難しいことに気づかせて、より英語らしい発音で歌うことへ意識づけることを狙った。

## 4. イントネーションと内容語強調の指導

間違い探しタスクを用いて、内容語の強調に焦点を当てた授業を行った。展開で内容語の強調を明示的に意識づけた後にタスクを行い、導入と展開の最後にタブレットで生徒のスピーチを撮影し、発音を意識する前と後でどのように変化したか、生徒に聞かせた。

## 5. イントネーションと機能語弱化の指導

機能語の弱化に焦点を当てた授業を行った。代名詞の主語と同格の and に焦点を当て、機能語は内容語と比較して弱く発音されることを提示した上で、コミュニケーション活動に取り組みさせた。展開の最後に IC レコーダーで生徒のスピーチを録音し、生徒の発音が強弱を意識したものとなっているか、生徒自身に聞かせた。

## 6. 発音指導の授業実践の全体的な成果と課題

全ての実践を通して、ICT を活用した発音指導を行うことで意識づけることは一定程度できたと考えられる。授業実践後、個別音や内容語の強調を意識して取り組む生徒が見受けられた。

課題として定着までに至らなかったことが挙げられる。生徒たちは自分の言いたいことを伝える際に、日本語に影響された発音で会話活動に取り組んでいた。定着させるためには一過性ではなく継続的な指導を行う必要があると分かった。

また ICT 機器の活用では不確定要素への課題がある。カメラが起動しない、生徒タブレットの充電が不十分などの事象が発生した生徒への対応できなかったため、そのようなことが発生しても余裕を持った対応ができるように取り組む必要がある。